

偏光制御とプロジェクション技術で モジュールビジネスを開拓 高精細の3D画像を映し出す 次世代メガネ開発

カラーリンク・ジャパン株式会社

佐藤 嘉高 社長



カラーリンク・ジャパンは、有沢製作所と米国カラーリンク社が部品を日本で生産することを目的に、両社合併で2000年に設立した会社。当時、米国で普及していたリアプロジェクションテレビの薄型大画面化を目指した新規、反射型液晶プロジェクション技術に対応したものだったが、その後の直視型液晶テレビやプラズマディスプレイの普及でリアプロジェクションテレビは市場からの撤退を余儀なくされ、同社の部品生産も大幅に減少した。米国カラーリンク社が3D映画用システムを運営、販売するRealD社に買収されたのを機に、2007年には有沢製作所の子会社となった。以後も、光ピックアップ用の部品や3Dテレビ用のメガネを手掛け、普及期には大幅な売上をあげたものの、市場変化で商品寿命を迎えると大幅に受注が減るといった歴史を繰り返してきた。このため佐藤嘉高社長は、「最終製品の売れ行きに翻弄された過去の経験から、従来の部品ビジネスに加えて、よりユーザーニーズに近づけるモジュールビジネスへの参入を目指してAIRBICに入居した」という。

DVDやブルーレイ機器向けをはじめ、かつて国内のセットメーカーへ大量納品していた光ピックアップ部品は、ゲーム機やPCを除いて急速に減少。一時は大量に生産した時期もあった3Dテレビ用のメガネも、3D用のコンテンツが少なかったこともありテレビ自体が失速してしまった苦い経験がある。「当社のコア技術は、偏光制御とプロジェクション光学系の技術、さらに3D技術への理解。これらを活かして新たな製品開発に挑戦する」（佐藤社長）と語る。

現在、同社の本社は、新潟県上越市にある有沢製作所の工場内に置くが、2020年12月に、東京支店を移転させるかたちでAIRBICに新拠点を開設。新製品開発を本格化する。すでにプロトタイプを完成させているものもあり、例えば隅々まで高精細の3D映像を鮮明に映し出すメガネ。視度調整と輻輳調整をほどこして、3D特有の不快感をなくし、自然なかたちで奥行きのある立体画像を見られる。佐藤社長は、「ロボット手術や内視鏡手術など、特に医療現場の研修用途のほか、CADや地図、ゲノム情報等の奥行情報を必要とする場面で効果がある」と説明する。部品やモ

ジュールだけではなく、一部は自社で最終製品にして販売を目指す。

セットメーカーと共同で、視野を完全には囲わないVR関連製品のメガネも開発しており、将来的には5G通信の普及や音声コマンドを前提にしたメガネによるウェアブル端末用モジュールの製品化を目指す。「どれも市場はニッチだが、偏光技術に特化して市場開拓していきたい。メイン顧客は海外のグローバル市場、販売面では他社との連携も模索していく」方針で、新たな製品技術で着実な成長基盤を築く。

カラーリンク・ジャパン株式会社

AIRBIC A37

事業概要 偏光光学部品製造及びAR/VR ディスプレイモジュールの開発・製造

TEL 044-280-7880

URL <https://www.colorlink.co.jp/>

E-mail contact@colorlink.co.jp

担当 営業 小松 拓也